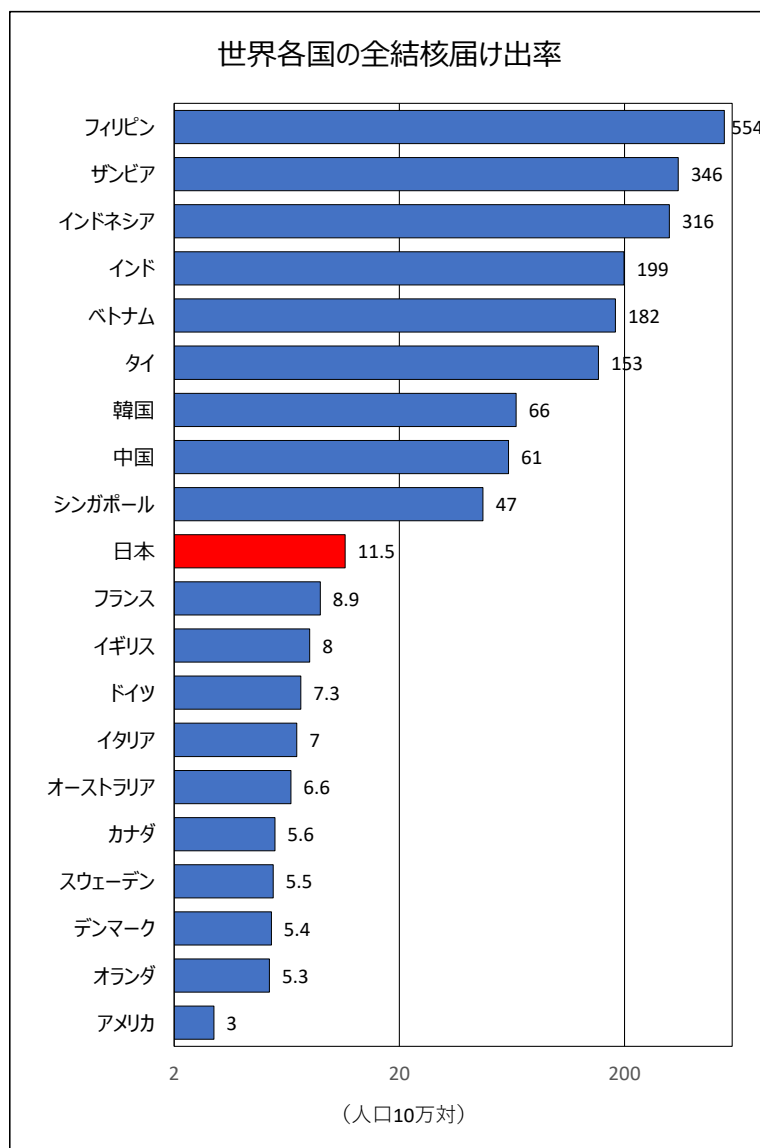


## 世界の結核、日本の結核

2019年におけるわが国の全結核患者届け出率は、人口10万対11.5になりました(2020年8月現在)。しかし、未だに年間1万4千人以上の方が結核を発症しており、結核は患者数からすると、わが国最大の伝染病の一つです。下図で示された通り、他の先進工業諸国と比べるとその率はまだ高く、近年の年間結核患者数減少率のままだと、結核低まん延国とされる人口10万対10以下のレベルに達するのには、数年先になると推定されます。ただし、2020年における新型コロナウイルス感染症の影響により、結核患者の届け出数が減少した場合には、結核低まん延化の時期が早まる可能性があります。

わが国における結核患者は、高齢者層と都市部における社会的困難層との2つの人口集団に偏在してきており、患者さんの必要に応じた、よりきめ細かなケアが必要となっています。また、外国生まれ結核患者の割合は、全体では約10%ですが、若年層(20~29歳)においては、その割合が70%を超しており、外国生まれ結核患者への対応も必要となっています。

空気感染する慢性呼吸器疾患である結核を早期に撲滅するためには、各患者の必要に応じた効率的な結核対策を忍耐強く、今後も継続して実施していかねばなりません。



2020.9 現在

日本の数値は「結核の統計

2020」、諸外国はWHO's

Global TB report 2019 をそれ

ぞれ引用